



大勢丸

特別
イ 4
3163
65



貴
14
3163
65

望南亭大人述

大帶

汲古堂發行

真平家藏

此乃桂園一枝之款也。其款之妙，在於其
枝之曲，其葉之茂，其花之香，其果之甜，其
味之佳，其色之麗，其氣之清，其神之爽，其
韻之幽，其趣之雅，其情之真，其意之切，其
理之明，其法之精，其術之妙，其道之玄，其
德之厚，其功之偉，其業之盛，其名之顯，其
聲之遠，其光之耀，其輝之赫，其威之震，其
靈之應，其祥之降，其福之至，其壽之長，其
樂之無窮，其美之無極，其善之無量，其德
之無疆，其功之無匹，其業之無雙，其名之
無敵，其聲之無敵，其光之無敵，其輝之無
敵，其威之無敵，其靈之無敵，其祥之無敵，
其福之無敵，其壽之無敵，其樂之無敵，其
美之無敵，其善之無敵，其德之無敵。

申川自休述

桂園一枝評

此乃桂園一枝之款也。其款之妙，在於其
枝之曲，其葉之茂，其花之香，其果之甜，其
味之佳，其色之麗，其氣之清，其神之爽，其
韻之幽，其趣之雅，其情之真，其意之切，其
理之明，其法之精，其術之妙，其道之玄，其
德之厚，其功之偉，其業之盛，其名之顯，其
聲之遠，其光之耀，其輝之赫，其威之震，其
靈之應，其祥之降，其福之至，其壽之長，其
樂之無窮，其美之無極，其善之無量，其德
之無疆，其功之無匹，其業之無雙，其名之
無敵，其聲之無敵，其光之無敵，其輝之無
敵，其威之無敵，其靈之無敵，其祥之無敵，
其福之無敵，其壽之無敵，其樂之無敵，其
美之無敵，其善之無敵，其德之無敵。



おまゝ、海をわたる。若し「あまの」眼をなやむ。無用せよ。
さし。かゝる。あまの。おまゝ。を。解。う。な。し。と。
乃也

海之震

昨夜の
く昨夜れ
あまの
洋の

ゆへに。あまの。おまゝ。一。篇。の。は。す。ふ。の。村。立
光。の。結。ひ。の。あ。ま。の。思。ひ。と。ふ。お。格
な。し。
休。ま。の。あ。まの。お。ま。の。愛。の。其。の。な。の。は。
結。ひ。の。あ。まの。お。格。の。あ。まの。遺。の。

待寫

二の
三の
四の
五の
六の
七の
八の
九の
十の

物。一。の。あ。まの。お。まの。結。ひ。の。あ。まの。思。ひ。と。ふ。お。格
な。し。
休。ま。の。あ。まの。お。まの。愛。の。其。の。な。の。は。
結。ひ。の。あ。まの。お。格。の。あ。まの。遺。の。

野外寫

あまの。お。まの。結。ひ。の。あ。まの。思。ひ。と。ふ。お。格
な。し。
休。ま。の。あ。まの。お。まの。愛。の。其。の。な。の。は。
結。ひ。の。あ。まの。お。格。の。あ。まの。遺。の。

角。此語を格しておきた。是は、（一）の格も
也。大いなる。東人何りの。後よ。是は、（二）
と思ひの。前と。いと。是は、（三）
く。是は、（四）。は。受る
付た。この。大。省の。普通
この。外。格と。是は、（五）
格勢。是は、（六）。時
る。是は、（七）。其
是。是は、（八）。其

格調の。是は、（九）。今
と。是は、（十）。思
一。是の。是は、（十一）。
ん。是は、（十二）。
や。是は、（十三）。
ら。是は、（十四）。
助。是は、（十五）。
この。是は、（十六）。
い。是は、（十七）。

と。おもむきおぼしき山ありて

志賀山誌

逢坂のゆかりひまきよき山なり。志賀山なり。其東に
光云逢坂のゆかりひまきよき山なり。志賀山誌
す。其東に光云逢坂のゆかりひまきよき山なり。志賀山誌
まよなき山ありて

休云逢坂の東に光云逢坂の東に光云逢坂の東に光云逢坂の東に
ゆかりひまきよき山なり。志賀山誌。其東に
まよなき山ありて

一。此山を城とす。おぼしき山なり。今も
山の花なり。丹波路の往来の心あり。其東に
保津城あり。其東に光云逢坂の東に光云逢坂の東に
まよなき山ありて

郭公帰山

ほとけおぼしき山ありて

光云結句むらよかな

休云。の陽春よむらよ。白雲大調(を)むらよかな。と云
ふに。むらよは愛のかなむらよ。むらよ。むらよ。得(ら)むら
ふ。むらよ。むらよ。むらよ。

休云。いと後普通の言格より。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
例也。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
一。委一。六。夕。落。むらよ。むらよ。むらよ。

休云。いと後普通の言格より。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
例也。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
一。委一。六。夕。落。むらよ。むらよ。むらよ。

休云。いと後普通の言格より。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
例也。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
一。委一。六。夕。落。むらよ。むらよ。むらよ。

休云。いと後普通の言格より。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
例也。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ。むらよ
一。委一。六。夕。落。むらよ。むらよ。むらよ。

あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく
大源なる せしききく せしききく せしききく せしききく

夏のよき月乃の世ある相の業も 清くも 涼くも 思はるる哉
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく

休云 此夏世の文章も 清くも 涼くも 思はるる哉
雨と首も せしききく せしききく せしききく せしききく
俗調よ おし せしききく せしききく せしききく せしききく
ひなも せしききく せしききく せしききく せしききく

あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく

休云 此袖白の せしききく せしききく せしききく せしききく
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく

あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく
あかへ せしききく せしききく せしききく せしききく

Handwritten text at the top of the page.

Main body of handwritten text on the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Main body of handwritten text on the left page.

らぬ。聖の如きものいふに、其の文辭の優劣ハ、體格を
とく無す。今古もあて分る處のなかり。其體格の差
ちあるは、はた也。詞の上も、其の天賦の
自然も出く。私よりの人も、其の天賦の如き也。其の古
一依りて今體ありありあり。今依りて古體ありありあり
也。古體なるは、其の古も、其の今も、其の古も、其の今も、
一。いふは、其の言を、其の本より、是を擇むを、體と云ふ。と
より、大小種中の、其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、
いふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、

ひて、移りて、其の事を得んや。おのま其種およそ、其の
ハ、今其體ありありあり。古其體なりを、捨つるは、其の
いふに、古人の文辭は、其のいふに、其のいふに、其のいふに、
ひく。其體も、其の體。今古のいふに、其のいふに、其のいふに、
らるるもの多し。其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、
變化ありなりなり也。其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、
そ。詞也。詞ハ、其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、
也。送。物の遠およそ、其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、
いふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、其のいふに、

此の書は一もゆらぐあはらむと用ひぬるをゆて本姓とせ
しむしすいよ能書なるぬれりもとのすれは賦のすを
うよまふれらるるあはらむる人のかよひのいかに
し也とまふりたるまふりたる一とてまふりく一か
とかなるぬるにえおらるるをむる一と
体云夏冬の前より能書の前は数もあはらむとて何ぞの
矯く一よ古集は俗を引よ事一のハ一又例をひら
既ま古今集ハ夏前二十首余冬前二十首余とて
併ハ六十首とみんくとて夏冬よ合せてハ其數倍を

也。さうして能氏も能書とよとせられしるハ若師も増りて
種一く。よまふ一もぬるは藤ぬまふ。世變をいふハ歌
おまむ一の免まふ。撰まふのせぬ

天保四年正月廿一日よ志あす

香川景樹大人著述

新學異見

一冊 既刻

六十四番歌結

一冊 同

うらな

大人判歌結

一冊 同

中空乃日記

一冊 同

百首異見

五冊 同

桂園一枝

大人歌集

三冊 同

古今集正義

卅冊 既刻

土佐日記創見

五冊 同

萬葉集招解

五冊 近刻

活言考

三冊 同

皇都書肆

河南儀兵衛

天保五年甲午秋發行

江戸

日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

大坂

心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

弘所書林

三條通高倉東天

皇都

出雲寺文治郎

寺町通三條上

河南儀兵衛

